

産業医

訪問

第8回

日本工営株式会社

産業医 田土浩氏



予防医学の重要性を痛感した病院勤務時代

私は、1989年に滋賀医科大学医学部を卒業しました。卒業後、同大学附属病院、国立病院機構相模原病院を経て、総合電機メーカーの病院の総合内科で診療に当たり、現在は専属産業医として日本工営株式会社に勤務しています。

病院で診療に従事していた時は、毎日、生活習慣病の治療や生活指導で地域や職域の方々に触れ合い、多忙でありながら、患者さんのおかげで充実した日々を過ごしていました。



しかし病院では、高血圧を長

年放置したために脳血管疾患（脳卒中等）を発症して救急搬送されてくる方々や、健診で便潜血陽性を指摘されていたのに放置し、進行した大腸がんとして発見される方々も少なからず診てきました。「健康診断で再検査を指摘された時に、すぐに病院を受診していたら…、誰かが病院を受診するように背中を押していたなら…」と心を痛めることもしばしばでした。

総合電機メーカーの病院勤務となつてからは、事業所の嘱託産業医も兼務するようになりました。その事業所で、生活習慣病予備群の方々や生活習慣病でありながら未受診の方々との出会いがありました。メンタル的な問題で苦しい思いをされている方々もおられました。

生活習慣病予備群の方々には、「今、手を打たないと将来大変なことになるですよ」と発破をかけ、必要な場合は医療機関での治療につなげました。メ

ンタル的な問題のある方は相談にのり、こちらに必要な方はメンタルクリニックにつなげました。なかなか一人だけでは受診にいたることは困難です。やがて他にもいくつかの企業の嘱託産業医を引き受けるようになり、従業員自身の生活習慣を変えること、社内に「安全衛生のしくみ」を作ることに専念するようになりました。

健診の事後指導に重点を置き施策を展開

当社では、会社をあげて「健康経営」に取り組んでいます。従業員が、イキイキと働くことができる職場をめざし、総務部、人事部、広報、健康保険組合等の部門が協力して推進しています。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営課題とし、戦略的に取り組む経営手法のことです。

幸いなことに当社の取り組みが評価され、2年連続で「健康経営優良法人・ホワイト500」に認定されました。

主な取り組みとして、健康診断を受けっぱなしにしない施策を展開しています。東京都予防医学協会にもご協力いただき、要再検者には通知を行い、さらに受診確認を行っています。従業員から「がんが早期発見できました」、「長年、病院に行くか迷っていましたが、やっと高血圧の治療開始となりました」などのうれしい声が届きます。

メンタルヘルス関連では、厚生労働

省が定める「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、衛生委員会において審議を行い、「心の健康づくり計画」を策定しました。

具体的な取り組みとして、衛生委員に対するメンタルヘルス教育のみならず、従業員向け、管理職向けにセミナーを開催しています。

さらにメンタル相談ができる環境を

整えるため、社内相談室を設置。そし

て社外でも相談できるEAPサービス（Employee Assistance Program）：従業員支援プログラム）を導入し、メンタル不調に早期に対応できる体制を作っています。

私自身も産業医として、また公認心理師として、従業員のメンタル相談を担当しています。また、メンタル不調で休業した従業員の職場復帰のための支援も、人事部と協力して行っています。

最後になりますが、会社における健康管理は、健康診断から始まります。そこから必要な方を再検査の受診、保健指導、診療（治療）へとつなげることができます。もちろん健康診断で問題ない従業員の健康の保持増進、疾病予防の取り組みも重要となります。

これらの施策でも協会にはいろいろとご協力いただいておりますので、今後ともよろしく申し上げます。